

2 表意文字として漢字に対する興味や関心を高める指導について (1年)

【実践例】



「お月さまとうさぎ」



「いっぱいできたよ」



「車に乗って楽しいおでかけ」



「水道から水がジャー」



「ヤッホー、お山に登ろう！」



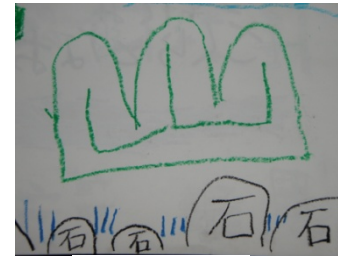
「たき火だよ、あったかいな」



「竹と田んぼ」



「学校と林」



「山と石と川」

【指導の流れ】

- 1 「今まで、たくさん漢字を勉強してきましたね。今日は、習った漢字を使って、楽しい絵を描いてみましょう。」
- 2 「『山』は、どんな絵からできた漢字か、覚えていきますか。そうですね。山の絵からできた漢字でしたね。絵にできそうですね。」
- 3 「ほかに、どんな漢字がありますか。」
* 児童の考えを板書し、「絵にできそうだな」という意欲付けを図る。
- 4 「いろいろありますね。楽しい絵が描けそうですね。それでは、クレヨンを出して、楽しい絵を描いてみましょう。一枚の画用紙にいくつ描いてもいいですよ。」

【留意点】

- 2 どんな漢字がどんな絵からできたのかを全体で確認してから活動に入ること、意欲を高める。「山」など、どの児童でも描けそうな簡単なものを板書しておくよ。
- 4 教科書巻末の「あたらしくならったかん字」のページを見ながら、既習の漢字をいろいろ思い出せるようにする。
できた作品は教室に掲示し、お互いの作品を見合わせる。掲示することで、漢字の形を印象付け、漢字の理解をより確かなものにする。